

## 平成23年度第2回千葉市史編さん会議議事録

- 1 日 時：平成24年2月22日（水） 午後1時30分～3時15分
- 2 場 所：郷土博物館 講座室
- 3 出席者：（委員）  
吉田会長、野村副会長、白井委員、本郷委員  
（千葉市史編集委員代表）三浦茂一委員長  
（事務局）  
生涯学習振興課文化財保護室石橋主査  
湯浅郷土博物館館長、加藤副館長、若菜学芸係長、  
築瀬副主査、市史非常勤職員笹川、非常勤嘱託職員大関（記録係）

### 4 議 題

- (1) 平成23年度事業報告
- (2) 今後の事業予定について
- (3) その他

### 5 議事の概要

- (1) 平成23年度事業予定について  
平成23年度に行われた事業について、史料調査収集・整理事業、『史料編 近現代』関係調査、市史等の刊行事業（『千葉いまむかし』25号・ニューズレター第7号・第8号）、市史編さん普及事業（千葉市史研究講座・初級古文書講座・中級古文書講座・企画展）、市史研究事業（千葉市史研究会・「江戸と千葉」研究会）、市史協力員（古文書ボランティア・新聞記事データベースボランティア・千葉町・千葉市議事録マイクロフィルムデジタル化ボランティア）の活動、その他の7つの項目に分けて説明し、承認された。
- (2) 今後の事業予定（案）について  
平成24年度に予定されている主な事業計画（市史研究講座・初級古文書講座・中級古文書講座・企画展・『千葉いまむかし』26号やニューズレターの刊行・研究会の開催）及び今後の刊行物（『歴史読本』（仮称）・『千葉市史 史料編 近現代』・『千葉市史料（仮称）』）案について説明し、承認された。
- (3) その他

### 6 会議経過

午後1時30分、委員5名中4名着席。今井委員は欠席。

司会（加藤副館長）より資料確認。その後、司会より設置条例第5条第2項の規定により、この会議の成立が告げられ開会。文化財保護室石橋主査の挨拶、吉田会長の挨拶

に続いて、設置条例第5条の規定により会長が議長となって議事に入った。

## 議題1 平成23年度事業報告

平成23年度に行われた事業について、上記7つの項目に分けて若菜係長より説明。

### <質疑応答>

吉田会長：内容が多岐にわたるので、いくつか区切って議論したい。まず1の史料調査収集・整理事業や2の『史料編近現代』関係調査についてはどうか。収集整理の方に飯高治雄家文書というのがあり、土気本郷の旧家であると書いてあるが、具体的にはどういったお宅なのか。

事務局（築瀬）：特別展「千葉市の教育」関係で、当館の学芸係から問い合わせをしたところ、史料が出てきた。市史編さん担当でも昔問い合わせをしていたようだ。近世段階では村役人をしていた家ということである。もともとは土気酒井氏の家臣である。土気城のすぐ前辺りにお住まいだったが、現在は転居している。

吉田会長：『史料編近現代』関係調査についてだが、昨年5月の会議で聞き取りや近現代関係の資料所在調査について事務局が中心になって行うべきではないか、といったことが今井委員らより提案があった。それはどこに反映されているのか。

事務局（築瀬）：近現代の資料について悉皆調査などのご提案は頂いたが、人手などがあって対応できていない。実施したいとは考えているが、すぐに出来る状況ではない。

野村委員：史料収集・整理をする中で、何かこれまでの市史を覆すような新しい史料が出てきたりはしていないのか。一般に知らしめることが重要なので、市制施行90周年の記念式典などにひっかけて、そうした新しい史料や発見を記者発表でもして少しでも市民の関心を高めていく必要があるのではないかと。

事務局（築瀬）：新規の資料については順次受け入れている。一部既に調査されているところもある。市史を覆すようなものは無いと認識している。

野村委員：貴重なものがあるということであるが、そういったものを市民に知らしめるために、節目にひっかけて発表できればよいのではと思う。努力してほしい。市制施行90周年記念の企画展はもう終了したのか。

事務局（築瀬）：終了している。

野村委員：記念式典を行う予定であったはずだが、それは今年度なのか。

事務局（湯浅）：90周年記念式典は本年度の事業ということで、昨年の市民の日に既に実施した。博物館では冠事業として、実施したものもある。企画展や特別展については各紙の記者に連絡、「千葉市の教育」については千葉日報へ掲載して頂いた。「加藤博仁氏収集資料」の方も数社取材が来ていた。

野村委員：積極的にがんばって欲しい。次年度予算で式典をするというような記載を見たように思ったのだが。

事務局（湯浅）：具体的には、来年度は政令指定都市移行20周年で事業がある予定である。

野村委員：その機会を捉えてPRできるとよいのではないかとと思う。

吉田会長：三浦委員長に伺いたいのだが、近現代史部会が昨年夏にあったとのことだが、部会として、先生方やメンバーが聞き取りや史料収集調査などを行うということはしていないのか。

三浦委員長：各委員が個別テーマに基づいてそれぞれ行っていることはあるようだ。私も今回の『千葉いまむかし』原稿執筆のために事務局と一緒に調査をした。

吉田会長：各人というのは相当数の方が動いているのか。

三浦委員長：何人ぐらいかは事務局に聞いてみないとわからない。

吉田会長：前回の議事録を読み返してみると、特に今井委員が切迫した状況であることを指摘し、強く史料調査収集作業や聞き取りなどするように言っていた。以前聞き取りを担当していた彦坂氏がなくなったわけだが、先ほど言っていた「人手の問題」というのはそれを指しているのか。

事務局（築瀬）：それが一番大きい。そうであっても、一人ではそもそも無理がある。悉皆的にやるとなると人手がもっと必要だろうと思う。

吉田会長：悉皆といっても、少しずつでもいいのではないか。この間、全く前進しているように見えない。実際にはどうしていきたいのか。

吉田会長：話の内容が市史の編さん問題にも関わることになってきているが、3の刊行事業や4の普及事業、その後のものも含めて何かあるか。

白井委員：現在刊行されているのは『千葉いまむかし』とニューズレターだけなのか。

『千葉いまむかし』は1,000部のうち無償配布分を除いて残り150部とのことだが、こうした残部についてはどうしているのか。

事務局（築瀬）：継続的に販売している。無くなった時点で終わり。ここ何号かは売り切れているものは無い。販売状況は良くない。

白井委員：講座受講者へのアンケート結果を見ると、『千葉いまむかし』を持っていたり、見たことがある方が少ない。千葉の歴史に興味がある方でもこうだとすると、もっと積極的にアピールした方が良いのではないか。講座の内容が盛りだくさんで理解しきれないという意見もあったようだ。『千葉いまむかし』で関係する原稿を載せていることを含め、今現在出している刊行物を一般の方にもっと知らせていくべきだと思う。予算の都合で今はこれしか発行できないということだろうと思うので、せめて今発行できているものを、広く一般に知らせていくことが大事だと思う。

事務局（湯浅）：郷土博物館の方では、『千葉いまむかし』は一度に大量に、ということはないが、館の二階に置いてある見本を見て購入してくださる方もいる。ホームページにものせてはいるが、一部の人の目に触れるだけであるとすれば、講座などの事業の中でも見本を置くことも含めて、更に広くPRしていくことも考えていきたい。

本郷委員：いき出版が刊行した『千葉市の昭和』というのとは何か。

事務局（築瀬）：いき出版というのは新潟の小さな出版社だが、横浜や川崎などでも同様の内容（都市の写真）の書籍を出版している。昨年9月に出たものだが、その中で使われている写真について、担当で把握していなかったデータを出版社や所蔵者に依頼して収集している。いまのところ、二ヶ所から承諾を得て、データ

を集めた。

本郷委員：千葉市内の出版社ではないということか。市川のものは見た気がするが、それと同じシリーズなのか。こうした写真集で利益が出るということなのか。

事務局（築瀬）：そういうことになる。こういった同じような本を年間に三冊程度作るとのことだった。

野村委員：市は何冊か買ったのか。

事務局（築瀬）：寄贈は受けたが購入はしていない。

吉田会長：宣伝不足かもしれない。

野村委員：書店では結構見かける。

本郷委員：民間レベルでこうしたものを出しても利益がでるのであれば、こちらでももう少し積極的にいろいろやってもいいのではないか。地元でそれなりに買ってくれる人がいるのであれば、この加藤博仁氏の絵はがきコレクションなどをもう少し積極的に打ち出していけば、それなりに需要があるのかと思うが。前に申し上げたと思うのだが、今年度 90 周年ということは、10 年後は 100 周年なので、その時に近現代編を何らかの形で出せるよう予定を立てた方が良いのではないか。良い機会だと思う。

吉田会長：100 周年は 2021 年度になるのか。

事務局（湯浅）：平成 33 年度になる。

吉田会長：あつという間だと思うのだが。

事務局（湯浅）：何度か現在の千葉市が抱えている状況をお話しているが、平成 27 年度に基本的にはピークを迎えるはずで、その後は財政状況が好転しているはずである。いまお話頂いている時期には、千葉市の財政状況も大きく変わっていると思うので、100 周年という大きな節目でもあるので、市史としても何らかのきちんとしたものを残していくことは大事だとは考えている。

吉田会長：参考までに、『千葉いまむかし』の製作コストはどのぐらいなのか。

事務局（築瀬）：印刷原価は、今年度は 1,000 部で 44 万円程度（税込）である。

吉田会長：電子書籍などを含め、この 44 万円をもっと有効活用する算段は出来ないか。850 部無償配布というのは相当多いと思うが、コスト的には 1,000 部も 1,500 部もたいして変わらないのであれば、1,500 部刷って 400~500 部販売して回収するような努力が必要なのではないか。現在はいくらで販売しているのか。

事務局（築瀬）：号数によって異なるが、最近のものは 500 円で、25 号も恐らくその値段になると思う。

吉田会長：安い。例えば 1,200~1,300 部刷って、400 部ぐらい販売してみてもどうか。しかし、その際回収できたお金は市の方へいってしまうのだろうと思うが。

吉田会長：では、研究講座など講座類については何かあるか。先ほどの本郷委員の意見のように、絵はがきコレクションはこのままにしておいてはたしかにもったいない。あまりやると近現代史編の領域を侵してしまうが、企画展のパンフレットにあるものだけでも大きくして数十ページの冊子にしてみてもどうか。

吉田会長：他に何かあるか。無ければ議題 2 に移りたい。

## 議題2 今後の事業予定について

平成24年度に計画されている事業（研究講座・『千葉いまむかし』26号など）及び今後の刊行物（『千葉市史 史料編 近現代』・『歴史読本』・『千葉市史料』）案・などについて若菜係長より説明。

### <質疑応答>

吉田会長：では、全体について何かあればお願いしたい。

野村委員：事業計画は昨年度と比べて何か変わったのか。概ね同じで、特に新しいものは全く無いとの理解でよいか。

事務局（若菜）：ほぼ同様な内容になっている。

白井委員：前回までは、研究講座が前期・後期で二回に分け、それぞれで募集をかけていたと思う。今回は一回ということだが、一回で募集をかけて三日間という形なのか。

事務局（築瀬）：三週連続なので別々に募集というわけにはいかない。

吉田会長：三週連続は、参加される方も相当大変だと思うが、どうなのか。細かい話だが、研究講座3回目の講師に予定されている戸谷氏はなぜ近世なのか。専門は天正期だが。

事務局（築瀬）：境目なので、中世に近いかもしれない。

本郷委員：彼は一応中世だが。

事務局（築瀬）：中近世移行期ということで近世にした。

吉田会長：近現代が無いのがひっかかるが、何故なのか。

事務局（築瀬）：今年度四講座行ったためである。

吉田会長：「編さん便り」は年一回になる可能性があるとのことだが、予算の関係上ということか。

事務局（若菜）：予算の関係で、全体的に減っているため減らさざるを得ない。編集にお金がかかれば二回出せるとは思う。作る過程で努力をしようと思う。

吉田会長：現在刊行できている限られた媒体の一つなのだから、もう少し紙の質を落としてでも死守するべきではないかと思う。

事務局（若菜）：当初はカラー印刷していたものがモノクロ印刷にしたので、紙の質についても考えていきたい。

野村委員：アンケートを見ると講座の開催を増やして欲しいとの意見がかなりある。それは市の方に示していくべきではないか。ぜひとも増加する努力をして欲しい。講座の内容についても、市民の希望・興味は中世から近現代が多い。今回は原始から近世までやるとのことなので異存は無いが、そうした市民が関心を持っていることに応える努力をこれからして欲しい。

事務局（若菜）：講座の回数を増やすのは難しい。館主催のものや公民館主催の講座に依頼により職員が出張することもある。そうした出張先の講座には、千葉市のことを全然知らない方にも、入門として易しい内容で行っているものもある。そういった機会もたびたびあるので、講座の回数は増やせないが、希望には応えていけると思う。

野村委員：新住民の方が多くなっているということで、千葉市の歴史に興味を持っている人が増えていると思う。市民を対象とした読み易い『歴史読本』をできるだけ早く作ることを再度提案したい。予算の問題があるので大変だろうが、努力をしてほしい。

野村委員：『千葉市史史料編 近現代』刊行予定とあるが、利用者は多く見込めるのか。これまでの史料編などの利用状況はどうなっているのか。そもそもどこに行けば見られるのか。

事務局（築瀬）：市内の図書館・学校・公民館などには配布している。

野村委員：貴重な資料に将来的にはなるのかもしれないが、結局一般市民の目にはなかなか触れない。

吉田会長：要するに既刊の活用などについての検討というご意見であるが、これは『絵にみる図でよむ千葉市図誌』についても同じことが言えると思う。

白井委員：既刊の史料集は、講座受講者へのアンケートを見てもあまり活用されていない。興味がある人ですらこうした状況なので、もう少し見やすい形にするとか、講座の中で、図書館にあることにでも触れるとよいのではないか。

本郷委員：現在開講している古文書講座のような形で、既刊の使い方を教える講座があってもよいのではないか。いきなり図書館に行って利用するといってもなかなか難しいので、『図誌』など見ながらお話を聞くとか、講演会でなく少人数で開催してみてもどうか。どのように活用するのかをわかっているようにする講座というのもあるのかと思う。もったいないと思う。

吉田会長：ゼミ的な感じになるのだと思う。そういった話になると、ゼミはすごく重要でいいのだが、誰を講師に呼ぶのか、謝金をどうするか、またお金が無い、で終わってしまう。

白井委員：古文書講座のような講座のあと、発展させていって自分たちでも学習できるような道筋をつけてあげられるような講座があると講師や謝金のことをあまり考えずに出来るのではと思う。

本郷委員：発展して、例えばそれぞれ公民館で地元の人達が集まって、地元の歴史のようなことを皆で考えられるようになればいいと思う。

吉田会長：『図誌』が刊行できたのは今井委員の尽力によるものなので、例えばとりあえず今井委員にチューターをお願いし、数回の企画で「『図誌』を読む」的なものを今井委員にボランティアでやっていただくというのはどうか。

本郷委員：『図誌』はまだ在庫があるのか。

吉田会長：たくさんある。

本郷委員：買うとしたらいくらなのか。

事務局（若菜）：一冊 6,500 円で販売している。

吉田会長：民間で出したら 1～2 万円はすると思う。

本郷委員：とても安いと思う。受講者の方を買って頂くのがベストだとは思いますが。受講しているうちに買いたくなった、という形が望ましい。

吉田会長：自分も含め、『図誌』の編さんに関わった人が何人かいるので、一回ずつぐらいボランティアで講師をするというのはどうか。これは実現の方向で検討し

ようと思う。

事務局（湯浅）：『図誌』に関しては、千葉市に新しく越してこられた方が、自分が今住んでいるところにどういった歴史があったのか知りたいというような問い合わせに対して一番最初にお勧めする冊子である。そうした面で、こちらでも PR はしている。お話にあったような刊行物を利用した講座についても PR をする上で大切な方法の一つとして検討したい。

吉田会長：現在ある在庫を区ごとに分冊しても良いかもしれない。

三浦委員長：研究会についてだが、市史研究会と「江戸と千葉」研究会と二つあるのだが、これは何故なのか。

事務局（築瀬）：市史研究会は今日三浦先生にお願いしている、編さん会議の後などに行うもので、それとは別に「江戸と千葉」研究会を吉田会長が中心となってやっている。こちらは一般向けの講座ではなく、関係者向けの勉強会として行っている。

吉田会長：前回の議事録にも少し出てくるのだが、基本的には「江戸と千葉」研究会は全くのボランティアで、場所を借りているだけで本来は市史の事業ではない。協力関係にあるような感じで、その辺りを事務局でもカテゴリ分けをされた方がよい。千葉市史研究会は事務局が中心となった、いわば直轄研究会だと思う。

三浦委員長：市史研究会が年間八回でも良いのではないか。

吉田会長：「江戸と千葉」研究会は、そもそもは都市をテーマとした科研費の関係ではじめたものである。そういうことも含めて単なるボランティアとしてではなく市史研究会として市史の方で位置づけるべきだ、という考えもあるとは思うが。

三浦委員長：市史研究会だといまひとつはっきりしないが、「江戸と千葉」研究会はテーマがかなりはっきりしている。市史研究会の中でそうしたテーマで行ってもいいのではないかと以前から考えていた。

吉田会長：何年も前から言っているのだが、他にも研究会を立ち上げてもう少し増やすべきだと思う。例えば聞き取りをテーマとした研究会であるとか。これはボランティアでやり始めようかと思ってもいるのだが。例えば三浦委員長にインタビューしたりというように、不特定の方で探すのではなくまずは委員であるとか、生涯学習部の前任・前々任の部長とか、身近な方々からお話を伺い、そこから広げていって、様々な形で関わりを持った方々にお話を伺っていてもいいと思う。

三浦委員長：県史でも知事や総務部長クラスや県会議員など、現役でない方から聞き取りをしようという計画があったが、手続きの問題で結局立ち消えになってしまったりと、なかなか難しかった。たしかに近現代は聞き取りをしておいた方がよいのだが。

吉田会長：何年か前から言っているのだが全然実現できていない。彦坂氏もいなくなってしまうため、近現代史の方で特にやっているわけではないようだ。そうこうしている間に「あのとき聞いておけばよかった」というような事柄が次々起きてしまっている。

野村委員：松井旭氏も亡くなった。

吉田会長：本来は松井氏所蔵文書なども重要だと思う。とにかく、来年度からとりあ

えず始めてみようと思っている。

吉田会長：別紙でお配りした内容についてお話したい。『歴史読本』については、今回もあまりに進展がないので、前回お話した『史料でよむ 千葉いまむかし』という本作りを本格的に始めようと思っている。前回、今年度中にとっていたのが延びてしまっているが、既に嘱託職員の大関氏が『千葉いまむかし』で連載した9本（25号分を入れると10本）の原稿があるので、これをベースにして、あと9本を足して考えたい。「執筆者案」とあるのは、「江戸と千葉」研究会で報告をお願いする時に考えていた方たちであるが、それぞれ一本ずつくらい書いて頂いて、7月ぐらいまでに原稿をそろえ、9月ぐらいの入稿を目指せば、多少遅れても年末には刊行できるのではないかと考えている。こうした話を進めて良いかの、了解を得た方がよいと思ったので、今回メモを作成した。おおよそ160ページぐらいで考えている。問題としては、まず刊行主体をどこにするかということがある。前回の議論の中では「江戸と千葉」研究会が編集という形でのよいのではないかという意見があったと思うので、編集はそうするとしても、千葉市史と全く関係なくという形ではできないと思うので、編さん会議が監修するという形はどうかと考えている。私が企画・監修を担当することにして、サブや事務局を担当してくださる方の名前をきちんと入れて進められないかと考えている。版元についてだが、出版社を見つけて交渉してとなると、買い取りの問題などを含めると、かえってお金がかかりそうである。なので、とりあえず自費出版方式で考えている。あとは、アンケートの集計結果などを見ながら、購入を希望される方には前払いでお支払いいただくような形も考えられるかと思う。500～600部印刷で、全て版下まで揃えてという形であれば、40万円台で出来るのではないかと考えている。アンケート結果によれば、2000円未満なら買ってほしいという意見が多そうなので、一冊1500円ぐらいで、企画したいと思っている。全額回収は無理だと思うが、こうした内容について、進めてもよいか、各委員及び千葉市の意見を頂戴したい。

野村委員：編さん会議の委員としては、自費出版で出すのなら何も異存は無い。問題があるとすれば「編さん会議監修」を入れるかどうかということになるかと思う。ただ40～50万では恐らくあがらないことも含め、今の計画では少々無理があると思う。こういったものだと、再版分岐点は3,000部ぐらいだと思う。金額は高くなるが、新聞・書籍広告を相当出してくれるところにするというのも一つの案。出版社については、書店で調べてみてはどうか。地方出版をしている会社の名前がわかると思う。千葉市内でなら、出版する会社は文明社、クリベンシス、アドユニバースの三つぐらいがある。特に文明社はデザインまで含めてすべてできるはずだ。具体的な案を、こうした出版社側と話し、見積もりを出すという方向で検討してみるとよいと思う。

吉田会長：具体的な企画案を持って、そうした出版社に行った方がよいのか。

野村委員：見積りを取ることで自体はさほど難しくはない。アンケートにもある通り、近現代などの新しい時期に興味を持っている方が多いので、そのあたりで、できれば解りやすく、易しい内容の本ができたらいいのではと思う。現在の内容だと

少し内容が難しいように思う。もし先ほどの会社にお話をされるのであれば、私の名前を出して頂いてよいし、千葉日報出版についても、必要であればご紹介できる。だいたいいくらぐらいかかりそうかを先にお調べになった方がよい。彼らは「売れる」ものをよく知っているのだから、そういった意見も聞いてみてはどうか。

吉田会長：事務局の方からも、問題点などあればお願いしたい。

事務局（湯浅）：事務局の職員の関係だが、自費出版ということで出すのであれば、そうした作業に職員が時間を取れるかの問題がある。これについては検討させていただきたい。協力することは問題ないと思う。

野村委員：かつて『千葉市のあゆみ』という冊子を作ったが、その時は1,000部か2,000部を市に買い取ってもらった。そういうことは予算が無いから出来ないと思うが、本当に価値のあるものなら、教育委員会なりにセールスにいくということも考えられる。

吉田会長：その場合、市はただ買い取ったというだけの関わりだったのか。

野村委員：そうである。

吉田会長：市は買い取ったものをどうしたのか。

野村委員：学校などに配布しているはずだ。そのときは予算があった時なので、できたのだと思う。

吉田会長：この企画は、我々がやりたいことを千葉市に協力して頂くのではなく、逆なので、そこをぜひご諒解いただきたい。千葉市の市史編さん事業の灯が絶えないように、予算が無いなかで、市史に関わったメンバーがどう協力できるかということの工夫なので、そのところをご諒解いただきたい。事務局が作業に時間を割けるかどうかということよりも、むしろその後の活用や普及などに関わるべきであり、今の事務局スタッフに具体的な割付などをさせるつもりではない。なんとか次回までにもう少し話を具体化したいと思う。

吉田会長：他に何かあるか。事務局の方はどうか。無ければ議題3に移る。

### 議題3 その他

#### <質疑応答>

吉田会長：議題3はその他とあるが、何かあるか。特に何もなければ、以上をもって、議事を終了する。

加藤副館長の進行により平成23年度第2回千葉市史編さん会議を終了。

会議終了後、野村委員より今後のスケジュールについての確認があり、次回の会議は来年度5月を予定していること、また各委員の任期についてはこのまま継続で来年7月いっぱいまでの任期であることを確認した。

問い合わせ先 千葉市立郷土博物館市史編さん担当  
TEL 043-222-8231